

御松囃子御能保存会（地域文化活動部門）



概

要

設立年月日 昭和四十三年十月十三日

会 長 西岡史郎

会 員 数 二十五名

所 在 地 菊池市大字隈府十七番地

電 話 番 号 〇九六八二五―二三〇七

主 任 活 動 地 菊池市隈府

御松囃子御能は、南北朝時代十五代菊池武光公が後醍醐天皇の皇子・懐良親王を征西將軍宮として菊池へお迎えし、年頭の祝儀として、菊池本城で正月二日(松の内)に催したのがはじまりとされている。

明治三年菊池神社が創建されると、祭礼神事に改められ、現在は秋季大会の初日である十月十三日に「將軍木」という懐良親王お手植えと伝えられる樹齢六〇年以上の樟の木を親王と見立てて、その前にある「松囃子能場」で仕舞・狂言とともに奉納している。

素朴なその形態は能楽以前、即ち、猿楽が神事能に移行した当時の形態を保っているとして、国選択無形文化財に指定されている。

昭和四十三年に保存会として正式に発足される以前は、能座組として行われてきた。昔は神事ということで、この奉納日以外には演じることが出来ないとされていたが、今日の文化的事情に伴い、地域の伝統芸能を紹介する文化行事への参加、また祝儀性のある芸能でもあるので、文化施設の締落とし等にも出演するなど、市内はもとより県内・外での行事にも積極的に参加し、本市の伝統芸能を知っていただくということで、文化的貢献をしていく。先人達により六四〇数年も継承されてきた能楽の源流ともいえるこの芸能を絶やしてはならないと、地道な活動ではあるが後継者の育成にも取り組んでおり、市民の方々にもこの芸能の理解が深まってきた。

また、保存会の狂言方による奉納も江戸時代から続けられており、秋の奉納では見学者の楽しみの一ひとつとなっている。保存会では、松囃子の由来が正月二日に始まったということから、平成四年一月二日に菊池本城跡である現菊池神社で「狂言と仕舞の会」を開催した。本年で四年を迎えたこの会が、毎年正月の恒例行事となるよう新たな活動も展開している。

能場・將軍木が位置している地区では、松囃子能に関連しての地域おこしも行われており、地域の振興・活性化に果たす役割は、今後ますます期待できるものである。

これまでの活動歴

- ・昭和四十九年
- ・昭和五十年
- ・昭和五十六年
- ・昭和五十八年
- ・平成元年
- ・平成二年
- ・平成二年
- ・平成四年
- ・平成六年
- ・平成六年

第三回熊本県文化財保護大会(熊本県庁)

全国民俗芸能大会(東京青年会館)

第三十五回民俗芸能大会「万歳と松囃子」(国立劇場)

第十二回九州芸術祭「万歳・萬才・漫才」(菊池市文化会館)

熊本県立劇場落成記念(熊本県立劇場)

第二回熊本県民文化祭 玉名「新能」(玉名市)

「御松囃子御能」公演・熊本県立劇場文化振興基金事業(熊本県立劇場)

「松囃子と狂言を観る会」公演・菊池市文化会館十周年記念事業(菊池市文化会館)

第五回国民文化祭・愛媛 全国能楽フェスティバル(愛媛県立文化会館)

熊本の「動」と「静」を観る・熊本県立劇場文化振興基金事業(熊本県立劇場)

地域伝統芸能全国フェスティバル 記念式典(熊本県立劇場)

第九回国民文化祭・三重 能フェスティバル(伊勢市三重県宮総合体育館)「能楽の源流を求めて」